

御陵の風



校長 西岡 浩一 (文責:教頭 藤井 浩彦)

御陵中「校訓」

◆10月18日、御陵中学校の研究発表会が無事に終わりました！

大野城市教育委員会の指定を受け3年間取り組んできた成果として、多くの来賓の方、先生方に授業を参観していただきました。その中で参観された先生方より、このような感想がありました。

- ・規律正しく挨拶もよくして落ち着いていた中で粛々と研究を進めてあるのだとわかりました。
- ・真面目で熱心、探究心を感じさせる授業態度に感心いたしました。授業の内容も興味深く、自分の授業に反映させたいと思いました。
- ・生徒が自分の考えをクラス全体に聞こえるはっきりとした声で堂々と述べているのが素晴らしいと思いました。
- ・4人グループの活動がとても活発でした。役割がきちんと決められていて全員で活動する姿が印象的でした。
- ・生徒がおだやかでかつ意欲的に練習にも取り組んでいた様子がよくわかりました。



【上:3年生国語・下:1年生保体】

子ども達が日頃から、日常生活はもちろんのこと、授業中も一生懸命に取り組んできた成果を見てもらえたようです。これからも子ども達と力を合わせ、御陵中学校がさらによくなるようにしていきたいと思えます。

当日、受付・案内・接待等で、お忙しい中にお手伝いいただきました保護者の皆様、本当にありがとうございました。

◆10月25日(木)は、第36回文化祭！！

いよいよ、文化祭が、間近となりました。特に、合唱コンクールへ向けて各クラス合唱の取組も大詰めです。素敵な歌声が学校中に響いています。各クラスで様々なドラマがあり、それを乗り越えた先に本番の合唱があります。自分のわがままを捨て、息を合わせ、心を一つにして歌うのです。きっと、本番はどのクラスも最高の合唱してくれるはず。子ども達の一生懸命な姿に心震えるはず。保護者の皆様のたくさんのご来場お待ちしております。

- 【期日】10月25日(木)10:00開会式
- 【日程】◆合唱コンクール[10:20~11:40]
- ◆弁論発表・美術部展示等紹介 [11:50~12:00]
- ◆被災地派遣報告[13:00~13:25]
- ◆吹奏楽部演奏[13:35~14:05]
- ◆閉会式[14:20]⇒15:00解散予定



【3年学年合唱の様子】

今後の行事予定

月	日	曜	行事	月	日	曜	行事
10	25	木	文化祭[まどかぴあ]	11	9	金	期末考査・防災教育
	29	月	生徒会4役立候補者受付		10	土	筑前地区剣道大会
	30	火	デートDV教育講演会[2年生]		12	月	薬物乱用防止講演会
11	1	木	3年生学力診断テスト		16	金	立会演説会・投票
	5	月	3年生進路説明会		22	木	1年生ふるさと学習
	8	木	期末考査		27	火	教育相談開始

忘れられない曲

10年前の10月21日、私の母は、5年半ほどガンと闘い亡くなりました。最初に大腸ガンの手術をし、その後、肺への転移が見つかり再手術の日程が決まった当時、私は2年生の担任をしていました。ちょうど「春に」という合唱曲を歌い始めた頃でした。そんな中、私は母の手術のために学校を休まないといけなくなり、子ども達へ申し訳ない気持ちもあって、正直に休む理由を話しました。母がガンと診断されたときの自分の動揺ぶり、祈るような気持ちで一度目の手術を迎えたこと、そして無事成功し喜んだこと、恐れていた「転移」を聞いたときのショック…自分の母親の「死」を意識するようになったこと、大切な母親への思い…など私はたくさんの子供達に伝えました。

休みをとる前日の帰りの会で私は「明日、先生は休むけれど、担任がいなくてこそ、しっかりと自分たちで頑張りなさい！」と言いました。すると、一人の女の子が「先生、ちょっと待ってください！」と手に何かをもって歩み寄ってきました。そして、「先生、これ、みんなで先生のお母さんの手術が成功するように書いたメッセージです。先生のお母さんに渡してください。」と言って、一人一人の手書きのメッセージカードがきれいに貼られた色画用紙2冊を私にくれたのでした。私は、嬉しくて嬉しくて涙が止まりませんでした。会ったこともない私の母への温かいメッセージとその行為に胸を打たれました。

私は、それを手に病院に行きました。母は、2冊の色画用紙を見て、「もう読む前から涙が出てきた。手術が終わってから読ませてもらうから…本当にありがとう」。母は、目に涙をいっぱいため「手術、頑張るから」と手術室に入っていました。母の手術は成功しました。

次の日、学校に行き、無事に手術が成功したことを伝えると、子ども達は嬉しそうに微笑み、大きな拍手をしてくれました。ある生徒が「先生、退院はいつになりそうですか？」と聞くので、「うまくいけば2週間後ぐらいだろうと病院の先生はおっしゃったよ。」と答えました。数日後の生活ノートには、「先生、私たちのクラスの目標が決まりました。金賞をとって、先生のお母さんに春日市の合唱祭にきてもらい、私たちの歌をプレゼントすることです」とたくさんの子供達が書いてきてくれたのです。後ろの黒板にも「先生のお母さんに合唱祭に来てもらう！絶対金賞！」を書かれていました。(春日市では、各校の金賞クラスだけが集まる合唱祭というものが毎年行われています)

正直、私のクラスは、2学年7クラスの中でも上手な方ではなかったのですが、それからの子ども達の練習の姿は真剣そのものでした。私もできることはしてあげたいと思い、国語の先生から教科書に載っていた「春に」について教えてもらい、詩の勉強をしました。インターネットでどう歌えばいいのか調べたり、全パートに入って歌えるよう四六時中「春に」を聴いて全パートを覚えたりもしました。また、いろいろな先生に合唱を聴いてもらい、アドバイスをいただきました。合唱は、日に日によくなっていきました。

私は、子ども達の言葉や行動に励まされ、子ども達の素晴らしさを感じ、感謝の気持ちでいっぱいでした。「なんて、素敵な子ども達なんだろう。こんなにも生き生きとして、一つ一つの言葉を大切に、何より友を思い、人を思い、心を込めて歌っている」。私は、母へのメッセージカードのお返しに、子ども達へのメッセージカードを渡すことにしました。合唱コンクールの前夜、それまでの練習の様子を思い出しながら、一人一人に私の思いを書きました。全部のカードができあがったのは朝でした。コンクール当日の朝、そのカードを子ども達一人一人に渡しました。私の書いたメッセージを読み、嬉しそうに微笑む子ども達。そのカードを大事に胸ポケットにしまい「ありがとうございました。絶対、金賞とります！」という子ども達を心から誇らしく思いました。そして、私を驚かせたのが、パートリーダーの一人の女の子が朝までかけてクラス全員にメッセージカードを書いてきていたことです。あれだけリーダーとして頑張ってきた上に、さらにみんなへ素敵なメッセージカードを書いてくる…改めて子どもってすごい！と感じた瞬間でした。

本番前、最後の練習の「春に」を聴いたとき、私は胸がいっぱいになりました。私は音楽の専門家ではありませんが、もう十分「金賞」以上の歌になっていると感じました。これだけ全員が心を込めて素敵な顔で歌っているのだからもう賞は関係ないと思いました。そして、本番も心のこもった感動的な「春に」を歌ってくれました。結果は「金賞」、歓喜と涙の閉会式でした。その後の合唱祭。子ども達は「今日は先生のお母さんのために、みんなでコンクールのとき以上に素晴らしい「春に」を歌います。」と言って、ステージに上がってくれました。一体感のある、何より心に響く合唱でした。私の母に「私たちの歌、どうでしたか？よかったでしょ？」と誇らしげに聞く子ども達の表情は満足感でいっぱいでした。私の両親は、この素敵な「春に」を聴くことができました。会場を出るとき私の母は私にこう言いました。「素敵な子ども達やね〜。あんた、こんなに素敵な子ども達に出会えるなんて幸せやね！子ども達に感謝しないとね！」と。私は、まさにその通りだと思いました。

10月のこの時期、子ども達の歌声が聴こえてくると、「春に」という曲と共に母に思いを届けてくれた子ども達のことを思い出します。一生懸命に生きるとは、一生懸命に命を使って頑張ることだと思います。母があつたとき私に言った「あんたは幸せ者。こんなに素敵な子ども達に出会えて…」を思い出しては、目の前の子ども達の頑張っている姿に元気と勇気ももらい、「よし、今日も頑張ろう！」と思えるのです。

10月25日、御陵中学校の子ども達のキラキラと輝く姿を見て、改めて子どもって本当に素晴らしい！頑張るって素晴らしい！きっと、そう感じる一日となるはずです…